

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 畜産研究所養豚養鶏研究部再編整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内 2804)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,335,000 千円 (前年度予算額：1,214,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担 金 負担 金	使用 料 手数 料	財産 収入	寄附 金	その 他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,214,000	0	0	0	0	0	0	879,100	334,900
要求額	1,335,000	0	0	0	0	0	0	952,300	382,700
決定額	1,286,720	413,527	0	0	0	0	0	684,000	189,193

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・養豚養鶏研究部 (美濃加茂市、関市) は、建設から既に50年以上が経過し老朽化が著しく、研究業務に支障を来している。
- ・平成30年12月には豚コレラ (CSF) が発生し、保有していた「ポーノブラウン」の種豚全てを消失したことから、種豚再造成が急務となっている。
- ・このため、美濃加茂市にある養豚研究機能を関市に移し、研究体制強化や種豚再造成のための施設整備を進める必要がある。

(2) 事業内容

- ・土地造成工事
- ・建築工事 (鶏舎・車両消毒装置等)
- ・既設建物・構造物解体撤去工事
- ・建築・解体撤去の実施設計業務

- ・ 土壌汚染調査業務

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県 10/10 (県公用施設の移転であるため)

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	349	現地への出張旅費
需用費	10,024	資料作成費、工事中仮施設稼働費用、防疫措置にかかる消耗品費等
役務費	2,465	通信運搬費、建築にかかる手数料等
委託料	128,151	各種工事監理委託費、設計費(建築・解体)、土壌汚染調査費用等
工事請負費	1,164,897	建築工事(鶏舎・車両消毒装置等)、土地造成工事、解体撤去工事
備品購入費	29,087	農場管理機器購入費
公課費	27	
合計	1,335,000	

決定額の考え方

- ・ 所要額を精査し計上します。
- ・ 財源については、地方創生拠点整備交付金を充当します。

事業評価調書

- | |
|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
畜産研究所養豚・養鶏研究部の研究体制強化を目的とした研究施設の移転・統合を実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
移転工事完了	0 (H29)	(H)	(H)	(H)	1 (R6)	0%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - (1) 建築設計業務
次年度建築予定施設についての実施設計、解体撤去実施設計を実施した。
 - (2) 土地造成工事
令和3年度の建築に必要な進入路、敷地の造成工事を行った。
 - (3) 解体撤去工事
令和3年度の建築に必要なエリアの建物の撤去を行った。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
建築設計業務により、解体撤去が必要な建物の設計、全体の基本設計とそれに基づく工事計画が策定され、今後の工事实施をスムーズに行うことができる。また、解体撤去工事・土地造成工事を行うことにより、令和3年度の建築工事をスムーズに行うことができる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	貿易自由化の流れを見据え、県内生産者からは、輸入畜産物に対抗できる高品質な生産技術の開発が望まれており、特に優良種畜の供給体制強化に対する要望が強い。そのため、老朽化が激しい養豚・養鶏研究部の施設整備は必要不可欠である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	畜産研再編整備事業が計画通り進んでいるため、機能向上した研究業務が移転後開始できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	必要最小限の予算で取り組むこととしている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 施設の移転・建設に際して、周辺住民・周辺環境への十分な配慮が必要である。 また、CSFをはじめとする家畜疾病の侵入防止に十分備えた施設とする必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 畜産研究所養豚・養鶏研究部の研究体制強化は、今後の県内中小家畜振興に必要不可欠であることから、着実に事業を進める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	